

(様式1)

令和7年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 051	提案機関名 湘南漁業協同組合
要望問題名 養殖ワカメの食害対策とワカメ品種改良・種苗生産について	
要望問題の内容【背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】 漁閑期の冬場は、当漁協組合員の多くがワカメ養殖に従事しております。しかし、近年の沿岸水温の上昇により、早期の種目の落ちが激しく、養殖開始が12月に連れ込み養殖期間を短縮せざるを得なくなっています。その上、12月の種挿し後もアイゴ等による食害が酷く、生産量が半減する状況となっており、中には壊滅的なダメージを受けている漁家もあります。 その対策として、①養殖筏を食害を受けにくい所に移設したり、17℃以上で被害が多発するので②アイゴの食害が減る12月下旬以降に種挿し時期を遅延させたり、③食害対策防魚ネット設置して、食害被害を何とか凌いでいます。 特に食害対策で実施している種挿し時期の遅延は、生育が不十分な状況が顕著なため、ワカメ種苗品種改良を始めとする下記事項についての取組をお願いいたします。 ①ワカメの品種改良：種挿し時期の遅延に対応するため、短期間で生育する早生品種、冬場の高水温に耐えられる②耐高水温品種、③葉が大きく育ち肉厚で製品歩留りが良い品種 ②ワカメ種苗生産：現在相模湾側のワカメ種苗生産を一手に担っている、金田湾の漁家が数年以内に種苗生産を辞めるとの情報が有り、ワカメ種苗の供給不足が想定されます。県内漁家の貴重な兼業種目であるワカメ養殖業を、今後とも継続できるように県が主体となって、上記品種改良と合わせて、ワカメ種苗生産に取り組んで頂きたい。 ③食害防護技術開発：安価で簡易に設置できる食害対策防魚ネットの開発などの食害防試験の実施（藻場再生のための海藻増殖においても応用できるものを希望）	
解決希望年限	①1年以内 ☒ ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター ②畜産技術センター ☒ ③水産技術センター ④自然環境保全センター
備考 冬場のワカメ養殖は、三浦半島地区の漁業者の多くが営み、漁閑期の重要な収入源となっております。	

回答機関名	水産技術センター	担当部所	企画研究部企
対応区分	①実施 ☒ ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可		
試験研究課題名 (①、②、④の場合) 磯焼け対策事業費、フリー配偶体を用いたワカメの優良系統の開発			
対応の内容等 - ワカメの品種改良につきましては、現在、県内各地からワカメの母藻を取り寄せ、これらからワカメの種に相当するフリー配偶体の確保し、水技センターにおいて、継代培養を実施しています。これらの中から、昨年は高成長系統の開発に着手しています。今後、更に早生ワカメ、高水温耐性系統などの優良系統の開発も図って参ります。 - ワカメの種苗生産につきましては、水産技術センターによるワカメ種苗の生産・配布はできませんが、漁業者自身による種糸生産の確保が安定的に出来るように、従来法よりも種糸の作成が容易なフリー配偶体を用いた新しいワカメの生産方法について、漁業者等と協力しながら開発、普及を進めるとともにワカメの種糸の供給体制についても検討してまいります。 - 食害防護技術開発につきましては、食害の防止を図り養殖筏を網で囲う「食害対策ネット」を設置する試験を行ったところ、対照の未設置筏ではアイゴによる壊滅的な食害被害があったのに対し、食害対策ネット			

を設置した養殖筏ではほとんど食害被害がなかった、というような結果も得られています。

引き続き、食害を減らすような筏の設置方法や養殖時期について工夫を行ったり、他県等での対策事例を収集・普及するなどすることで、食害被害の低減に努めてまいります。

解決予定年限

① 1年以内

② 2～3年以内

☒ ③ 4～5年以内

④ 5～10年以内

備 考